

第5回「南三陸町まちづくりワークショップ」

○日時：平成18年6月22日（木）19：00～21：00

○場所：南三陸町役場行政第2庁舎2階会議室

○次第：1. 開会

2. ワークショップ

テーマ2 まちの担い手のあり方について

上記テーマについて前回に引き続きA・B2つのグループに分かれて討議を行った。

<Aグループ>

Aグループでは、これからのまちづくりの担い手の育成に関して話し合った。

大きな課題として、

- ・町民がまちづくりに参加できていない。
- ・まちづくりへの町民参加を受け入れるための体制が整っていない。

以上2点について、課題を解消するための環境整備のあり方やコトを動かす仕組みを具体化させていくために、下記のような討議を行った。

○協働を阻害している要因は何か？

◇行政にオンブにダッコという姿勢が町民サイドにあるということは否定できない。

◇例えば、ゴミのポイ捨て対策、環境美化、植栽管理など、町民の意識の持ちようで町民ができる（率先してやるべき）ことは結構ある。それを行政の業務だからと簡単に行政に頼ってしまうという発想で今後もいいのか。「町民でできることは町民がやる。行政はそのための手助けをする」という意識の転換が大切である。すべての町民が正しい公共道徳心を持つようになれば、良い「協働」の形になり地域づくりが実現されるのではないか。

◇行動を起こしている住民の姿を役場は十分に把握していないのではないか。また、地域づくりに前向きな人、意識の高い人はいるが、それを吸い上げる仕組みがないため、せっかくの芽が育たずにしぼんでしまっている。

◇このワークショップをはじめ、町内各所でその芽が見られる。町民も変わろうとしている。行政職員も意識を変え、共に汗を流してもらいたい。

○協働のまちづくりのためには？・・・具体的な仕組みは？どうしたらよいか？

このような状況を改善するためにも、担い手となる町内の人材と行政とのパイプが必要であり、そこに期待される役割は、住民の町への想い、アイデア、情報を吸い上げて地域づくりに繋げてくれる橋渡しである。

◇町民の持つ知識や技術は多様であり、それをまちづくりに生かせる仕組み・制度の整備が必要ではないか。具体的には、次のようなものがあげられる。

→高齢者を主体とする第一次産業の技術や知識の活用（高齢者の生きがいがいづくりに繋がる。）

→母ちゃんパワーの活用

→南三陸のフィールド資源を活かし、〇〇体験インストラクターなどの資格創設

→保健・福祉を地域で支えるための新しい資格の創設と啓発（助産婦の活用、介護など）

◇高齢者の活動が地域社会に貢献しているという認定・表彰制度

◇現在も各地域で見られるが、例えば、集落の清掃活動、PTA活動、あるいは職場単位での活動といった「住民の暮らしの中で手の届く範囲」の活動を大切に、その動きを拡大し、町ぐるみの動きに発展させていくことも大切なのではないか。

○協働によるまちづくりには、共有されるべき町民全体に共通するテーマが必要

町民全体に共通するテーマは、トータルな議論を踏まえて形づくっていく必要がある。

今回の議論では次のようなテーマがあげられた。

◇食や農を通じた食育や人づくり、地域循環を基調とした取り組みを一貫して進める。

◇全ての町民の健康な暮らしが確保されることを最大の目標に掲げる。

（病気になる、長生きできる、子どもが健やかに育つなど）

○これからのまちづくりに何故、団塊の世代か？

団塊の世代は、終戦後の近代以前と近代以降の双方の厳しい時代を経験し、生きるうえで必要な様々なことを身をもって学んできた。また、現役を終え、今までできなかった「自分らしさの追求」「生きがいの追求」を望んでおり、その活躍の場を地域に見いだすことが期待される。

→次代を担う子どもたちに、町の良さ（人間性、職業など町の大切なもの）を伝えることができる。

→厳しい財政下で、観光ボランティア、環境整備ボランティアなどとしての活躍が期待される。

○男性だけではなく女性の参画も

「母ちゃん」の智恵・技は、地域づくりの中で継承、あるいは活用されるべきものが多い。一次産品の加工、郷土料理づくりをはじめとする智恵や技術を部落ごとの体験活動に生かすことで、次代に継承したり、観光に役立てたり、あるいは、住民の食育に役立てるなど、地域づくりの中で、様々な効果が期待される。

○町民間の協働意識を育てなければ・・・

地域（集落）間で相互に協働しあう意識は現状であるのか。協働意識を醸成するためには、今回のワークショップのように、何度もお互いが顔をつき合わせ、コミュニケーションの機会を持つことがプロセスとして必要であろう。そういう意味での機会は現状では不足しており、そのようなプロセスを通じて、町民の意識をまとめる行動を起こさなければいけないのではないか。

<Bグループ>

Bグループは、前回の議論を踏まえ、まちの担い手のあり方について話し合った。

○まちづくりへの住民参加の課題

◇協働における行政と町民の役割分担・責任

- ・これからのまちづくりに協働の視点は欠かせない。地区コミュニティとの連携も重要である。
- ・しかし、例えば保育問題の解決のために地区の高齢者による子育て支援を考えた場合、万が一事故が発生した場合の責任の所在は？
 - 地区の住民が話し合い納得のうえで実施すればよいのか？
 - 保育サービスのような場合には、主体は町職員で住民は職員のサポートというレベルか？
 - **協働の方向性、役割分担、リスク管理が検討課題**

◇地域コミュニティでの情報

- ・防災無線は有効だが、音だけでは不安。紙面での情報提供も必要（ウィークリーのようなものを住民が集まる場所へ：例：母親向けの情報なら子育て支援センターのように）
 - 防災無線や広報のような全戸レベルでの情報提供だけではなくきめ細かな情報提供が必要

○まちづくりにおいて埋もれている人材の発掘

◇女性の社会参加

- ・南三陸町は女性が動きやすいまちなのかどうか疑問（女性が参加しにくいように感じる）
- ・活動する女性に対する同性の支持が得られにくい（→女性の意識改革が必要）
- ・女性の社会参加の場が限られている（→子育て世代＜PTAなどの学校関係の場＞と高齢者＜観音講のような地区コミュニティの場＞はあるが、子育てを終えた女性の参加の場がない）。
- ・若い女性の集まる場がない。
 - **女性の活力を十分に発揮できる環境・意識づくりが必要**

◇行政区の見直し

- ・人口減少社会を考えると地区コミュニティを本気で見直すことが必要である。
- ・地区のつきあいは一面では煩わしさもあるが、その中に素晴らしいものが隠されている。
- ・地区の立て直しを考える場合、行政区長という役職の見直しが必須である。
 - 現状：ある行政区では名誉職化、ある行政区では成り手がいない＜区長が町からの頼まれごと以外に積極的に取り組まない・取り組めない＞
 - 将来：①今後のことを考えると、地区を引っ張るリーダー、地区のコミュニケーションを円滑にし、様々な取り組みを主体的に進める地区づくりの機能・役割・働きが求められる。
 - ②町職員の削減により行政区長の役割は高まるのではないか。
 - 区長の活性化を促すためには、区長の役割を明確化し、権限を強化するとともに、仕事に見合った報酬が必要（例えば1つの職業といえるくらいの働きが求められるはず。原資は区長が配ることによって浮く郵便物送付代金を充てるなどが考えられる）
 - 住民は区長のジレンマを理解し、その活動をサポートするべきである。
 - **行政区長を核とした地区づくりの再構築が求められる**

◇町衆意識の復活

- ・かつて商人は町衆として自己の資産を投じてまちづくりを行っていたが、その気概を取り戻すべきではないか。
 - **まちなかでは事業者によるまちづくりの再構築が必要**

○まちづくりに対する住民の共通認識・誇りの構築

◇まちの良さの再認識

- ・ 共通認識<同じ目線>でまちをみるためのキャッチコピーが重要(南三陸といえば「〇〇のまち」と住民だれもが答えられるようなもの)
- ・ まちのレベルアップを図っていくためには、現在の町民が南三陸町（観光・サービス）の特色と思っているものを見直すことが必要

◇まちに誇りをもつために

- ・ 美しい自然はどこにでもある（さらに美しい自然を有するまちもある）。しかし、ゴミが一つも落ちていないまちは全国探してもない。十分に価値があるまちになりうるのではないか。
- ・ 町民が自信をもってまちづくりを行い、そのまちを外部の人が評価することによって、町民のまちに対する誇りが生まれるのではないか（まちに対する誇りは町民自らの手づくりあげることが必要）

→ **町民の取組をひとつに方向付ける、町民がわかりやすいまちづくりの目標が必要**

<全体共通事項>：次回のワークショップについて

◇次回（7月6日（木））は、2時間で終わらない場合、1～2時間の上限を設定し、時間延長して提案書（内容）を確定する。それでも終わらない場合は、（例えば）翌日の夜、再び議論をし、確定させることとする。

◇これまでの議論で出てきた施策アイデアや具体的な提言内容については、提言書に含められるものは含め、提言から漏れたものについては「こういう検討・アイデア出しを行った」ということが分かるように、添付資料のような形でまとめることを考える。